

人・ものに触れ、地域を再発見しよう

～鵜の島・出会い・発見～

教科・領域 総合的な学習の時間、生活科

宇部市立鵜ノ島小学校全学年

キャリア教育の観点

この取組は、地域ではたらく人との関わりを通して、地域のよさを再発見しようという活動です。ねらいは以下の3つです。

- ①鵜の島校区の町や人に触れることで、自分たちの校区に親しみをもてるようにする。
- ②異年齢集団で行動することにより、お互いの行動を理解し合い、協力していく態度を育てる。
- ③鵜の島校区を再発見し、今後の学習（キャリア教育・総合的な学習の時間・生活科）につなげていく。

【人間関係形成・社会形成能力】【課題解決能力】

事前準備

事前に校区内の約30ヶ所の事業所へ学習協力の依頼をした。その結果、18の事業所から協力の返事を頂き、体験活動は15の事業所で、見学学習は14の事業所で可能となった。また、それぞれの事業所からの返事で可能な活動についても把握することができた。今回協力いただいた事業所は、リサイクル品集積所、ふれあいセンター、寺院、郵便局、幼稚園、保育園、介護用品店、スーパー、コンビニエンスストア、障害者生活支援センター、車販売店、ガソリンスタンド、高齢者福祉施設、駅、ガラス加工店である。そこで、事業所からの返事をもとに、以下の2点を考慮して体験場所と見学場所の組み合わせを考えた。1点目は、体験と見学の場所が異なる業種となり、多様な学習ができるようにする。2点目は、2つの活動場所（事業所）が離れすぎず、移動に時間がかからないようにすることである。

縦割班ごとの話し合い

縦割班での話し合いは、12班に分かれ、3回行った。1回目は高学年対象に行い、その事業所で何を学びたいか、どのような力をつけたいかの観点から体験と見学の事業所を選定した。児童が希望する事業所に偏りができると予想されたため、各事業所で可能な活動内容を知らせ、様々な事業所に関心をもつことができるようにした。2回目は3～6年生を対象に、3回目は全学年を対象に話し合い活動を行った。内容については、以下の5点である。

- ①体験と見学場所での体験・見学内容や質問したいことなどの話し合い
- ②昼食場所とそこでの過ごし方の決定
- ③班の目標や約束事の話合い
- ④日程、持参物、注意事項などの確認
- ⑤しおり作り

また、2回目の話し合い後には、高学年児童と担当教諭で事業所へ体験・見学のお願いに伺った。その際、道順や移動時間、道順の安全などを確認した。

鵜の島・出会い・発見当日

縦割り班ごとに、約1時間～1時間半の体験活動と約30分の見学学習を行った。体験・見学場所では、各事業所の方から仕事の内容や仕事の楽しさ、難しさについて話を聞いたり、子どもたちが事前に不思議に思っていたことを尋ねたりした。さらに、体験場所では、日頃されている仕事の一部を体験させていただいたり、高齢者福祉施設に入居されている方や乳幼児との交流を図る活動を行ったりした。子どもたちにとっては日頃、目にすることができない仕事について学んだり、触れ合うことの少ない高齢者の方と関わったりすることができ、新しい発見もあった。その一方で、見学場所では、話が多いため、低学年の児童には難しい面もあった。学習後は、公園で昼食をとり、縦割り班遊びをしたり、秋見つけをしたりして縦割り班の交流を深めた。帰校後は、学習したことをまとめたり、お礼のお手紙を書いたりした。また、この学習では、安全に活動できるようにコミュニティスクールのボランティアに引率のご協力を頂いた。

そして、お願いの時同様、高学年児童と担当教諭で事業所へ手紙を持参し、お礼に行った。定期的に取り組んでいる学習であるため、事業所によっては、これまでのお礼の手紙が飾られていたり、お手紙を手渡すと「これが楽しみなんよ。」と言ってくださったりして、子どもたちも喜んでいた。

このお礼の訪問をもって、全校での学習は終わりとなったが、生活科や総合的な学習の時間で、学年のめあてに添ってまとめたり、さらに学習を広げたりするなど、学習はつながっている。

9:15	運動場へ集合 全体説明
9:20	出発
9:30～11:30	体験・見学学習
11:30～12:45	昼食・縦割り班遊び
13:00	帰校
13:00～14:20	学習のまとめ
14:40	下校





子どもたちの感想

活動後、各班で右の写真のような学習のまとめを行った。まとめの観点としては、仕事内容、はたらく人の気持ち、体験・見学でしたこと、仕事に必要なこと・大切なことなどである。子どもたちのまとめには、以下のような内容があった。

○駅員さんが列車のことを話してくださり、ぼくも列車が好きになりました。(1年)

○目が見えない人でもスポーツができると初めて知りました。(3年)

○仕事に必要なこと、心がけていることは、法律を知ること、やっつけられないこととやらなければならないことを判断して、お客様に安心して利用できる郵便局にすることだと分かりました。(6年)

○「たくさんの人に商品を買ってもらえるようにしている」「地元で働きたいからこのスーパーで働いている」など、働く人の気持ちが分かりました。



考察と今後に向けて

子どもたちにとっては、体験を通して学ぶことができる貴重な機会となった。事業所の方や利用者の方との交流は、お互いに充実したところが多かった。また、社会科とリンクしたり、総合的な学習の時間を深化したりすることができた学年もあった。安全に学習を行うことができたという面では、コミュニティスクールのボランティアの力添えが大きい。今後も協力を得たいところである。しかし、子どもたち、教職員、事業所の方の振り返りを考え合わせると、いくつかの課題が見えてくる。

○上・下学年によって必要な事前学習時間に差が生じる。また、お世話になる事業所によっては事前準備が必要な班もある。

○見学学習は、メモをとることや内容を理解することが低学年では難しい。

○体験と見学の両方に取り組むと十分な時間の確保が難しい。事業所からも30分という見学時間では、話だけになり難くなったり、終わりの時間が気になったりするというご意見もあった。

○一つの事業所に、見学班と体験班が行くところもあり、受け入れ先に無理をさせてしまう。

この『鶴の島・出会い・発見』は、職場体験を2年、史跡巡りを1年の3年サイクルで行っている。来年度は、職場体験の2年目をなる。今年度の反省を踏まえ、以下のポイントに留意して改善を図る。

①各学年の発達段階に応じた他教科、総合的な学習の時間などとの関連づけ

②事業所との交渉や協力を得やすい活動時間、活動開始・終了時刻の見直し

③縦割り班で活動することの意義とキャリア教育のねらいの関わり